

開催記録

名 称	令和元年度第3回会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議
開催日時	令和元年 11 月 27 日（水） 午前 10 時 00 分から正午まで
開催場所	会津美里町役場本庁舎 203 会議室
出席者	別添委員名簿のとおり （欠席委員 3 名 田尻昭博委員、仙波千代委員、佐藤朱音委員） 事務局：政策財政課課長鈴木國人、参事小川良典、人口減少対策室長渡部充、 係長國分政和、田中駿理、政策企画係長川田浩泰、 株式会社ケー・シー・エス 3 名
議 題	・町民ワークショップの結果について ・第2期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（骨子案）について ・今後のスケジュールについて
資料の名称	第3回会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議 会議資料一式
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>1 開 会（省略）</p> <p>2 座長挨拶（省略）</p> <p>3 報告事項（座長）</p> <p>（1）町民ワークショップの結果について</p> <p>（事務局）事務局および株式会社ケー・シー・エスより、会議資料に基づき説明。</p> <p>（座長） 只今、事務局より、町民ワークショップの結果について説明があったが、質問はあるか。</p> <p>（委員） 町民ワークショップ 166 名参加とあるが、参加した方の年齢構成はどうだったか。</p> <p>（事業者）町民ワークショップで主に参加された方は、まず町広報による周知で参加された地元住民の方、そのほか役場若手職員、商工会青年部、婦人部などや、地元銀行、農協、の方など。これ以外にも、町づくりを主に担ってくれている方が参加した。</p> <p>大沼高校生や地元出身の大学生など若い方の参加もあり、幅広い年代の方の意見を聴取することができた。</p> <p>（委員） 資料2の読み取り方について、施策の目的に関する主な意見や町民等の役割に関する主な意見で書かれているものは、出席された町民の方の意見ということでよろしいか。また、地域の意見と町民の意見はどう違うのか。</p>	

- (事業者) 意見は参加した町民の方々から出された意見で、地域や町民というのは、その主体となる人を指している。ワークショップの第1回～第3回では、それぞれの施策テーマで町として、町民として、地域として今後どのようなことをやっていくべきかという意見を出してもらった。それが資料2中の表に色分けで書かれているものであり、ワークショップの中で、町民個人でできること、地域・組織・団体で取り組めばできること、行政と協力すればできることに仕分けをしてもらった。これがA4資料中の町民・地域という形で記載してあるものにあたる。第4回は第1～3回の内容を精査し、施策の目標・目的を考えてもらった。最初に取り組み案を出してもらい、次のステップにどんな姿を目指すかを出してもらった形である。
- (委員) ワークショップのアンケートについて、どのようなアンケートだったのか。アンケートの内容はどういった書式を使用したのか、ワークショップに参加された方のみが対象か、答え方は満足度を1～5で選ぶようなものだったかという中身を知りたい。また、アンケートの結果と担当者の重要度は合致しているのか。満足度が高くてもそれで納得していいのか。
- (事業者) アンケートは第1回～第3回のワークショップに参加された方へ、終了時お願いをしたもので合計87名に実施した。項目としては、町のすべての施策について重要か、重要でないか、満足しているか、満足していないかをそれぞれ4段階で答えてもらい、合計して表にプロットした。整合については全てが整合しているわけではないが、例えば観光に関する事などはワークショップで様々な意見が出され重要だということで合致しているように思われる。類するところで、観光と商工業では切り離せないもので、商工業についても同じことが言える。全ての項目ではないが、こういったところでワークショップの意見とアンケート結果が合致している部分がある。一方、保健体制や防災、子育て分野では、ワークショップでは満足しているという結果で行政体制はある程度満足しているが、個人でもっと頑張らなければならないというところである程度アンケートの結果と合致している。
- (委員) アンケートの結果をできれば年齢別、男女別などで分けると、項目によって若い方、高齢の方など実際携わる方がどう思っているのかがわかる。特に若い方の意見が大事だと思われるので、できれば年齢別で出して今回の結果と等しいのか、それとも異なるのかも検証をお願いしたい。
- (事業者) 今回166名というワークショップの人数の中に女性も含まれていたが、人数としては20人程度だった。ここからクロス集計で女性だけの結果として出すと、統計的に処理に耐えられない数字になってしまう。一方、ワークショップとは別に町民アンケートで、子育て環境が充実しているかということを女性に限り聞いていた。そこでは、町として高い評価をうけており、町民アンケートの結果と今回のアンケートは整合している。
- (座長) 必ずしも数字的に処理するではなく、質的に事実のものを拾い上げる使い方をした方がよい。子育てに関しては基本的に町民の満足度が高い。前回の会議であったが、観光や6次化など重要なところが一番難しいところである。他にご意見あるか。

(委員) 3地域でワークショップを実施したが、各地域特徴的なものや印象的なものはあったか。

(事業者) 感覚的ではあるが、新鶴はどちらかというと地域で何かをやらなくてはならないという思いが強い。人足の話が出て、人足を有効に機能させることで様々な町づくりができるのではないかという話が住民の方から出たのが印象的だった。これは、他の地域では出なかった。本郷は、本郷焼等に関わる方が参加しており、観光や情報発信に関する意見が出ていた。高田は多様な意見が出ており、高校生の話も含め、移動手段や商店街の空き店舗の有効活用、バスの待合場所等の話がでていたのが印象的だった。

(座長) 人足とはなんですか。

(委員) 道路の草刈りや水路の清掃など自治区の共同作業のこと。

(事業者) 集落毎に人足があり、他地域の様子も伺いながら互いの地域が頑張っている。

(座長) 地域に限らず、この意見は提案につながるという面白い意見や印象に残ったものはあるか。

(事業者) 資料2のピンクで囲んだものが今回新しく出た意見で、例えば公共交通でいえば、公共交通のよりどころとして空き家・空き店舗を使うという意見がでた。国土交通省で小さな拠点というのが出ているが、これに類する意見が住民の方から出された。単純な空き家、公共交通の問題というだけでなく、課題を複合化させて解決しようという視点で意見が出た。

(座長) 他、ご意見、ご質問あるか。

(座長) ないようなので、報告事項を終了させていただく。

4 協議事項 (座長)

(1) 第2期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略(骨子案)について

(事務局) 事務局より、会議資料に基づき説明。

(座長) 只今説明があった骨子案だが、各基本目標に5～9つの施策がぶら下がっている。全てを完璧に出来る訳がないので、優先順位付けが必要である。基本目標1から順番に議論を行いたい、基本目標1についてご意見等はあるか。

(委員) 基本目標の最後、赤字で本町の産業を担う人材育成を行うとあるが、具体的な内容をお伺いしたい。また、具体的施策(9)中の人材バンクについても、具体的にどういうものなのか。

(事務局) 現時点では、具体的な事業イメージを構築するには至っていない。

(委員) 今後、そういった育成できる場を提供したいということによろしいか。

(事務局) 後継者不足等の問題が継続的な課題としてあるため、一度町外に転出した人が定年後にまた戻ってきたり、退職した方が次のステージで活躍できる場が必要である観点から記載した。

産業振興課のデータでは、町の新規創業が増えているということがあるが、地域金融機関の目から、融資の面から感じることはあるか意見いただきたい。例えば、美里町にはこれだけの融資額がある中で、これだけしか資金が回っていないなど。

(委員) 美里町で枠があるわけではないので、融資については随時相談対応したいと思う。美里町は、新しく工場をつくる、新設・増設の助成金など色々なことを実施している。これをもっと表に出して実施していくと新設・増設の工場が出てくるのではないか。一番問題なのは、人手不足である。進学校の普通高校の生徒は、進学する生徒がほとんどで就職する生徒は一部である。学生は何を基準にして就職先を選ぶのか。学生の数も減っていく中、どうすれば学生が町に残ってくれるか。

(委員) 大沼高校は令和4年度に坂下高校と統合になり、幅広く生徒を募集する予定である。現在、若松市から通学している生徒が5~6割、町内者は4~5割である。学校としては、地元に残る生徒を育てていきたいと思っている。今年3月に卒業した生徒を見ると、進学6割、就職4割である。県外等に就職した生徒はうち10%であり、比較的会津地域に就職している生徒が多い。ただ、今年度に関しては、求人の数が多く、県外からの求人が増えている。その中で生徒たちが着目しているのは、職場の就業環境で、表面的に言うとは給与の部分となる。生徒が地元の企業をどの程度知っているかという、知っていることは少なく、なかなか企業に関する情報が入ってきていない。今、2年生全員がインターンシップ4日間実施、3年生に関しては就職を希望している生徒のみ実施している。就職を希望しているものだけではなく、進学を希望している者についても、町役場にてインターンシップをした。町内企業でのインターンシップ受け入れ機会が広がれば、より理解が深まると思う。

もう一つは、高校に入ってから地元を理解するのではなく、小中学校を通して地元に関して理解し、高校に進学した際に、そこからどうやって地元へ貢献すればよいか学ぶ場面があればと思う。

(委員) インターンシップは地元だけか。会津全域か、それとも町内だけか。

(委員) 会津若松市、磐梯町、町内、スーパー、企業等で実施している。

(委員) インターンシップ先は生徒の希望か、それとも教師側が決めるのか。

(委員) 生徒の方に就職の希望をとり、同じような体験ができる企業を教師・学校側で選ぶ。

(委員) 会社の説明会は美里町内の企業だけで開催し、大沼高校生で参加する等は可能か。

(委員) 現に会津坂下町の説明会には大沼高生で参加しており、そういった機会があれば積極的に参加したいと考えている。

(委員) 学生が就職するために、地元企業への要望はあるか。

(委員) まずは、企業の理解が大事だと思う。これが重点的に進めば生徒も理解が進む。どんな会社でもいいという生徒もいるが、より積極的にこういう仕事をしたい、こういう貢献がしたいと思っている生徒がたくさんいるので、そういう生徒に企業を紹介できるチャンスがあるようにしていきたい。

(座長) 若い人が地元で学んでいるので、うまく連携すれば高校のためにも会社のためにもなる。商工会などでインターンシップを仲介する等してほしい。インターンシップは嫌がる企業もあるが、地元貢献だと思って視野を広げてほしい。進学する人も2年後、4年後就職する時、やがては帰ってきてほしいため、進学者に対してもインターンシップは行った方がいい。

- (委員) 町の方で企業の募集を行い、小学生、中学生のうちから概略的にこういう仕事があるというような交流の場を作ってほしい。社会に対することを若い方へこちらから発信する必要がある。
- (座長) 先ほど後継者という話があったが、商工会の方で後継者についていかがか。
- (委員) 現在本町では、後継不足、事業承継等の問題があり、国では10年間重点的に事業承継に取り組んでいる。商売となると人口が関係してくる。後継者がいないところに関しては、自然廃業になってしまう。そのようなところに関しては、新規創業ということで、本町としても新規創業は他地域と比較しても多いため、重点的に支援してほしい。
- (座長) 人材育成という話になりましたが、県は人材バンクのような仲介等はしているのか。
- (委員) 会津地方振興局で、高校生が地元でどういった企業があるのかインタビューをしながら行ってもらう、高校生が地元企業について知り、その内容を冊子にまとめている。工業高校では、企業の方が学校に行き、授業してもらうということをしている。
- (座長) 農産物のブランド化について、これからの施策で出てくるのが、地域商社についてだと思われるが、町、地域商社と農業のつながりについて何か進展はあるか。
- (委員) 地域商社事業としては、3年間国の事業をもってやってきた。その中で新たな物を作りながら、外貨を稼ぐために販売戦略を練って行ってきた。これまでの戦略としては、注目される目玉となる物を作らなければならないということで、例えば新鶴ワインと友好都市である那須町のチーズはどちらも国際線のファーストクラスに利用されており、これを組み合わせた販売、他には薬用人参を使用したピンピンコロリカレー、人参を利用したオールインワンジェルなどを売り出し、新聞等でも取り上げられた。これまでは他にない特徴的な物を作ってきたが、地元の産品ということで、地元の物だけを使用したブランド品が必要である。今後はそういったことを重点的に生産者と情報交換しながら取り組むことが必要であると考えている。地域商社の役割は非常に大きいと考えているため今後とも力を入れていきたい。
- (座長) 前回の会議でも話が出たが、地元での消費拡大は重要な視点である。会津若松市はイオンリテールと連携し、地元で売れなくて困っているものを東京等で売っている。小売りと連携した企画があってもいいと思う。
- (委員) 最近の取り組みとしては、10月に東京の靖国神社でオープンした八千代食堂に、会津美里町のお米を使ってもらっている。八千代食堂は、かつて知覧の特攻隊が出撃前に食した玉子丼が復刻し、ご飯に美里産のお米を使っている。他にも、ノベルティとしてお米を真空パックにして会社の名前を入れ、イベントで配ってもらうような商品開発をしている。
- (座長) 他、ご意見等あるか。
ないようなので、基本目標2についてご質問、ご意見等あるか。
- (委員) 基本目標の中で、新しく「施設」ということが追加されているが、施設というのは美里町でいうとどういったところとなるのか。
- (事務局) 第1期では、観光入込客数としていたが、前回の検討時、皆さんからご意見いただい

た中で、実際に数値的な部分の捉え方というのがあった。そのため、伊佐須美神社等といった観光施設の入込数の方が適切ではないかということで、今回追加したもの。町内の観光施設というと、神社仏閣、温泉施設、焼き物等がある。これまでも情報発信等の取り組みをしてきているが、今回改めて施設ということで言葉を追加した。

(座長) 法用寺は役場の人がいるのか。

(事務局) 常駐していない。

(座長) では、そういった施設におけるカウントの方法はどのようなのか。

(事務局) 一定の日時や時間帯におけるサンプル数からカウントする方法も考えられるが、現時点では固まっていない。

(座長) 町民が観光に乗り気であるのは大事である。市町村によっては、住民が観光局を嫌がる場所もある。外へのアピールも大事で、HP やインフルエンサーのユーチューブ配信など情報発信の方法がある。

(委員) 観光の振興に関しては、アンケートの結果として重要度満足度のところで重点的に改善策を検討すべき施策群の下の方に位置しており、町民の方も改善してほしいと思っている部分である。自分も会津美里町を取材して、町内に様々な資源があると感じるが、物としてあってもつながっていないのが現状である。提案として、例えば観光で考えたときに、美里町で観光するならこれというゴールデンルートのようなものを1つ作り、そこから派生すればいいと思う。いろんな地域の商品にしても、外の人が来た時に、一目で美里町に何があるかわかるものがない。そういったわかりやすいものが必要であるとする。マニアックなところは黙っていても来る人がいる。まずは、美里町の定番を作っていくのが第一であると思う。

(座長) 一覧性、わかりやすさ、魅力、とっつきやすさというのが大事になってくる。ふるさと産品に関しては、ふるさとチョイスというサイトに載せた方が良くと思う。役場に問い合わせてくださいというのは売れない。

(座長) それでは、基本目標2についてはこれで終了する。

続いて基本目標3に移るが、基本目標3の「誰もが」というのはどこが変わったのか。

(事務局) 女性、高齢者、障がい者などがともに働き、生活できる社会システムを構築するというので、文言を追加させてもらった。

(座長) 子育て支援のことについて、前回、子どもの居場所などそういった話が挙がったが、今後の発展には何が必要か。

(委員) 現在の子どもたちは、色んな情報に埋もれている。小学生でもゲームや、SNS などの利用が広がっており、これらへの対策も必要であると思う。学校から帰ると、友達と遊ぶという子どもたちの姿が見られない。ゲームをして部屋に閉じこもっているのが現状である。ゲーム上で友達とのオンライン通信も可能で、このような環境にある子どもたちの10年後、20年後の将来が危ぶまれている。

個人的な活動をしている方もおり、子ども食堂のようなかたちで、子どもたちが集まり、高齢者の方と子どもが交流したり、宿題を教えたりしているところもある。公民館の活用も文化活動の一つになっており、子どもの面倒を見てくれる団塊世代の方も

いるので、空いているところを活用しコミュニティの場を作っていく必要がある。

(座長) ダイバーシティ(多様性)という言葉もよく聞かれるようになってきている。東邦銀行は女性活躍推進企業として国の表彰を受けたが、どのようなことを行っているのか。

(委員) 女性も男性と同じくチャンスがあるということだが、逆に今は女性の方が働いていかなないと人手不足ということがあるので、会社全員で取り組んでいこうとしている。女性も男性も能力を平等に評価し、各自の事情に応じてフレックスタイムを導入したり、自宅勤務を可能としたりしている。人手不足のため、女性の働き方や、高齢者の方でも退職後、経験を活かして働いてもらうということ等が必要だと感じる。

先ほどのネット上のゲームの問題については、時代の流れでネット社会の進行は止まらないため、学校で正しい利用やセキュリティに関する指導が必要であると考えている。

(座長) 基本目標3はこれで終了する。

続いて基本目標4に移る。基本目標4について、地域防災力の部分は毎年のように大規模災害が起こる中、注目度も高い。本町の防災の課題について感じていることはあるか。

(委員) 今回台風19号で、午後10時避難指示を全町民に初めて出した。現在防災組織はあるが、実際に災害が起きた際、現場でなかなかすぐ判断がつかなかったりなど、幸い被害は少なかったが、失敗もたくさんあり良い経験となった。現在、今回の反省や課題を踏まえ、避難指示を出すまでのプロセスや、順序立て等の検証をし、次回以降の災害が起こった際の対応について検討をしている。実際、起こって初めてわかる課題が多くあった。消防団員の数が減っているという組織的な課題もあるが、実際災害が起きた時にどう対応するかという行政だけの問題ではなく、町民の方がハザードマップを読んでおき知識を持っていただくなど、今回を契機にやっていかなければならないことがある。ハザードマップの理解を深めていくことや、現在実施している地域別の避難訓練に加え、対策本部として災害時動けるよう非常訓練や夜間訓練など、実際に機動できる組織作りをやらなければならない。また、自主防災組織についても増やしていかなければならないということもあり、これは一番大きい課題である。

(座長) 除雪とかそういったことに関しての課題はどうか。

(委員) オペレーターが人手不足であるので、民間に委託しているが、隣町との関係もあり、隣接市町村がどこまで除雪をしているかわからないということがある。そのため、広域的な取り組みが必要であるという課題がある。

(座長) その他、ご質問、ご意見あるか。

(座長) ないようなので、これで第2期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略(骨子案)についての協議を終了する

(2) 今後のスケジュールについて

(事務局) 事務局より会議資料に基づき説明。

(座長) ご意見、質問等あるか。

(座長) ないようなので、これにて協議事項を終了する。

5 その他

(事務局) 第4回会議は2月上旬を予定。

会議資料は事前に確認いただけるよう早めに送付する。

6 閉 会

以上、開催記録として報告します。